

第14回 芝樋ノ爪及び芝4・5丁目地区まちづくり協議会

議事要旨

(1) 日時

平成26年5月16日（金）午後2時5分～4時5分

(2) 場所

芝公民館 会議室1・2

(3) 出欠者（会員数17名）

- ・ 会 員：14名（欠席者3名）
- ・ 事務局：川口市4名、株首都圏総合計画研究所4名

(4) 議事次第

- 1) 開会
- 2) 協議会で活動したいテーマについて
- 3) 地区計画の原案説明会の開催について
- 4) 今後の予定
- 5) 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 資料1：今後の協議会の進め方について
- ・ 資料2：分科会でのテーマ（案）について
- ・ 資料3：地区計画の原案説明会について



▲当日の様子



▲当日の様子

(5) 議事概要 (○：質問・意見、→：回答)

1) 開会

2) 協議会で活動したいテーマについて

「事務局より資料説明」

【意見】

○：分科会は、協議会のメンバーが分かれて参加し、さらに市民が加わるのか。

→：2パターンある。興味ごとに開催するパターンと、一つのテーマに絞って開催するパターンであるが、後者は1回に3つのテーマを扱うので、運営上なかなか厳しいかと思う。

○：資料にあるように、一つのテーマに絞って会を3回やるのがふさわしいのではないだろうか。6月から来年の1月までは、分科会で動くのか。

→：その通りである。

○：協議会の方々と話をするのは、これはこれで大事であるが、市民向け説明会に来た人は少なく、そこに来た私と同じ40代の方は、若い人が意見を言う場がないと言っていた。それを受けて、先日事務局に協議会の下部組織として意見を言う場所をつくるがよいのではないかと提案した。資料の人口構成をみると、20～40代が多いならば、その方々が住みやすいまちを考える必要がある。ご高齢の方のケアも考えなければいけないが、人口の多い20～40代が意見することは大事であるので、その方々の意見を吸い上げる場があるとよいのではないか。20～40代は案内を受け取っても、会になかなか参加ができないので、曜日・時間帯も考える必要がある。土日の夜なら集まれるだろう。その際、テーマを決めて集まるということではなく、同じような年代の方々を集め、まちづくりの重要性について気軽に話し合う場所をつくらないと、人は集まらないと思う。そのあたりはどう考えるか。

→：まだ決まっていないので、例えばということで提案を持ってきている段階である。今日の話合いでよい案が出れば、それをサポートしていきたい。

○：商店街のまちづくりで今一番悩んでいるのは、雨水についてである。大雨のたびに、すぐ店に雨水が入ってくる。今は土嚢を積んで対策しているが、土嚢を用意しないと店をやっているのはおかしい。芝銀座商店街のU字溝を新しいものに取り換えるなどの雨水対策をやってもらいたい。住みやすいまちをつくるには、最低限、雨水のことを考えてほしいと切実に思う。

また、商店街で、高齢者の見守り体制を整えるため、泥棒やひったくり事件への対策のために防犯カメラを設置したいが、商店街にあるお金だけでは限界があり、数を設置することができない。

○：今のようなお話を商店街や協議会だけで終わらせず、行政に届けるにはどうしたらよいか、考えなければいけない。芝地区には7名の市議会議員がおり、地区の要望・意見を伝える会を開いたが、話し合いは一度きりしか開かれていない。防犯カメラは商店会だけではできないので、市など様々なところから資金を出してもらわないといけない。雨水の問題についても、貯水槽が完成して効果が上がっているはずだが、集中豪雨では雨水があふれることについて問題提起する必要があるので、議員に一般質問として責任ある回答を頂くようにしたい。

次に、公園について、当地区には土地開発公社の所有地が30数億円分あるので、その土地を不足する公園の面積分として活かすことができないか。具体的な例として、芝5丁目広場は、公園課

が土地開発公社から借りて公園として使用している場所である。また、芝新町には自転車置き場がないので、当時の市民生活部長が、この土地を自転車置き場にすることを提案した。それを地元が了承し、実現する方向で動いていたが、実現する直前に意見があり、ご破算になった。市長も変わられたことだし、また実現するように話を持ち出そうと考えている。

堅川の暗渠化及び緑道化についてだが、堅川が開渠になっているのは、陸橋の下の部分と、銀座通りを過ぎて栄通りから猫橋までと、猫橋の先があるが、それぞれ環境が全く違う。芝中田町会と芝浦工大が共同で調べたところ、水質がとても悪く、その原因は生活排水であった。堅川は現在、雨水のみが流れるはずの水路である。しかし、昔、排水路であった経緯から、今も一部で生活排水が流れ込んでしまっているためにこのような事が起こっている。

そういった様々な問題について話すとなると、テーマはたくさんある。行政にどのようなルートで提案・要望を持っていくかを考え、それぞれもちかければ、いずれよい結果が出てくるはずである。

○：立場によって問題意識が違う。世代・性別、また住んでいる場所によっても変わってくる。様々な問題点が出てくると思うので、まずは、テーマで同じような年代の方々が集まって、というよりは、商店会・お母さん同士などが集まるようにして、その中で多くのテーマについて話し合うようにしないと、なかなか人が集まらないのではないかな。

○：テーマによってアプローチの仕方を考えなければいけない。Aさんが述べた年代別アプローチなど、アプローチの仕方から糸口をつくれればよいのではないかな。

○：今までは市から出される将来のまちづくりというテーマについて議論してきたが、先ほどからの意見を伺っていると、将来的というよりは、今抱えている問題をどうするか、ということが今回の議論の主流になっているように思う。大きい意味ではそれもまちづくりに繋がっていくと思うが、今まで議論してきたまちづくりのイメージとは異なる。今の問題を取り上げることがよいのか、取りあげなければいけないのかという協議会のあり方から問い直さないといけなくなる。各分科会にメンバーを割り振るようにしないと、まとまらないと思う。

○：今までは市から与えられたテーマを考えるというスタンスで、受け身だったが、これからは一般市民がどうしたいか、について優先順位をつけて考えるべきである。

→：今日の協議会での議論によって、今後のあり方を決めてもらいたい。今のお話の中で気になったことがある。他の地区のまちづくり協議会でも、地域を代表するような地域と関係の深い方々が集まってきているが、よく、協議会で議論すべきテーマは何かということについて、考える場面がある。

例えば、ゴミの問題等。これについて協議会で議論をしてはいけないということはないが、既に町会等の既存の団体で議論・運営されている問題でもあり、これに関しての議論は2重構造になってしまう部分がある。そういった点から、このような問題を取り上げるのであれば、協議会はそれぞれの議論を横につないだり、関連付けたりしてトータル的に進めるのがよいと思う。単なる2重構造の議論になってしまうと、効率的ではないので、割り切り方として既存の団体でやっていることと、協議会で議論することは、意味合いが違う点を意識するとよいと思う。

○：雨水の問題だが、商店会だけの問題だとお考えかもしれないが、一般の方にとっても問題である。雨水が足首まで浸かるような状態になってしまうので、まち全体の問題である。

○：よりよいまちづくりをすることが最終的なテーマである。3回の分科会だけでは偏りができるかもしれないので、大勢の意見を吸い上げるような形で場づくりをしたらどうか。樋ノ爪地区はシャッター街だったが、地域の方々が掃除を始めたたり、ペンキや壁を塗ったりしていたら、椅子・テーブルなど自然と集まってきた。皆さんが集まると、アイデアなど様々なものが集まる。3回の場で、いかに多様な声を拾うかについて考えるべきである。私は他の地域でまちづくりに関わったことが

あるが、場づくりができれば、そこから商店街活性化支援を頼るなどのアイデアが出たので、それができればまちが活性化すると思う。

- ：まちづくり協議会の発端は、防災関係にある。芝地区は全国でも有数の住宅密集市街地であり、住宅密集市街地の防災対策を強化するというのが、まちづくりの基盤になっている。基本的にテーマの中でどのあたりが重要かという、公園づくり、避難経路、防災マップづくり、既存の水路の緑道化である。そういう基本テーマを把握して、それについて意見を出してもらいたい。あくまでも、まちづくり協議会の目的を外れないよう、防災を考えてほしい。まちの活性化が中心でなく、消防車の入れない細い道をどうするかなど、防災対策の整ったまちをつくらうということである。
- ：今できることは何かを考えると、空き地・店舗・道路を利用して何かをやることかと思う。ハード整備は行政が行うが、あとは住民が何をできるかである。私も20年防災の仕事に携わっているが、防災と言っても人が集まらないので、興味を持ってもらうようにして、人をどう集めるかが大事である。
- ：今年度、都市計画審議会の手続き、公告縦覧等を経て、建築物の敷地面積の最低限度・高さの最高限度・用途制限等が決定される。これはまちづくり協議会として議論がまとまったものが提出された結果であり、また、その一部が建築条例化されるという流れがある。
- ：条例化しても、住民のまちづくりに対する認識がなければ、まちは変わらない。
- ：住民が家を建て替える際に、条例に則って建築審査を経るので、認識はしてもらえる。
- ：Aさんの言うように、20～40代の人たちの声を吸い上げる場の設定が必要かと思う。当協議会会則第2条目的の、「まちづくり検討会及び勉強会の協議を踏まえ、地区の防災性と住環境の向上を図り、誰もが快適に住み続けられる環境のあるまちを目指すことを目的とする」という部分がまちづくり協議会の生命線である。これを逸脱するのは、協議会が崩れかねない。場づくりにあたっては、無関心無感動な「誰が市長になっても一緒」という人々を呼び起こさないと輪が広がっていかない。
- ：分科会をやることには違和感がある。町会単位等で話し合うような内容ではないと思う。
- ：芝樋ノ爪町会では、若い人に関心をもってもらえるよう、この2～3年、知恵を出して行事を進めている。春祭りでは、まちづくり工房さんに防災に関して子どもにもわかりやすく展示して頂いた。若い人に興味をもってもらえるパンフレットをつくるなどの取り組みもしている。
- ：先ほどAさんが言われたように、当地区は20代、30代、40代が多いが、その人たちに参加してもらうには、何かテーマを決めて段階を踏んでいかないとなかなか難しい。例えば、町会単位でそういう年代の人が集まる会を計画して、そこに案を持ち込んで協議をするなど決めないと、漠然と話し合うだけでは何もすすまない。分科会は案を持ち寄って一つ一つやっていると結果が出ないのではないか。できれば、一つでもよいから結果を出していくことが大事である。何も考えずにやってもすすまない。当地区は老朽住宅が多いので、我々は防災のために消火器を10mおきに設置して初期消火に役立てようと飲食店に配っている。テーマを打ち出して若い世代に参加してもらえるような雰囲気づくりをしてもらいたい。我々協議会のメンバーは60代以上が多いが、当地区は20～40代がそれぞれ500名程度いる。こういう人たちに参加してもらいたい。
- ：分科会がだめということではなく、このまま去年と同じまちづくりのテーマで続くのも、合点がいかないということである。
- ：他地区における協議会でも、ルールづくりの提案後も協議会が存続する場合が多い。その場でのテーマは道路整備の進捗などについて市が状況報告したり、相談したりといった具合になる。ルールづくりの後も、協議会にまちを見守って頂くというスタンスはどうか。

協議会は、住民の側から予算の進行管理や様々な意見を市に言うことができるので、そういう意

味では貴重なよい場だと思う。ぜひ継続されたほうがよいと思う。

○：地区計画の協議会案の提出の区切りで、協議会の役割は終わったものと理解していた。

○：分科会を開催するのなら、テーマを防災に一本化すべき。分科会に出て、意見を言う人はこの協議会メンバー以外に考えられない。

また、この話し合いの結果を行政にどう出すか、考えを出して頂かないと議論が進まない。

○：分科会をやるかどうか決めないといけない。協議会はメンバーが変わりながら継続するものであると認識している。協議会案の提出は終わったが、見守るという役割がある。水害などは、まちづくりの問題ではないので、もっと町会で訴えるべき内容と思う。

○：私が町会長を引き受けていた時とは切り口が違う。協議会案の提出によってハードに関しては一応済んだと思った。分科会を開催することによって、将来的にどれぐらいのことができるのか。先ほどの話であったように芝銀座商店会に土嚢をシャッターの前に積んでいるなど、簡単なことが数十年も解決なかなかしない。どういう将来性を踏まえて進めていくのかを考えないといけない。今日はこれでよいが、次回から人を集めて、会場を別にするとと言っても、人が集まらないだろう。20～40代を集めるということであれば行政のほうから説明してもらいたい。

→：4つ提案がある。1つ目は、いきなり分科会をするのではなく、もう一度協議会を開催したらどうか。2つ目は、次の協議会で、若い人をどう取り込むのかについてももう一度話合うのがよいのではないか。3つ目は、今後、公園づくりが重要な課題となっていくと思うので、それを踏まえ、どういうメンバーで、どうなったらよいかを話し合うとよいのではないか。他の地区での公園づくりの取り組みを紹介しながら、それをもとに話し合うのはどうか。4つ目は、次回の協議会で、もう一度まちの課題を話し合い、記録として残し、整理するのがよいのではないか。

○：雨水の問題を真面目に聞いてもらえない。基本的なところを放置してまちづくりというのはいかがなものか。

○：すぐにできること、できないことがある。違うアクションを起こすなど、もっと最適な方法を模索した方がよい。

○：雨水の問題は芝神戸町在住の議員にお願いしている。芝中央通りは、片側は市道、片側は県道になっている。田んぼにプールぐらいの貯水槽をつくったらどうかと頼んであった。

○：協議会の継続について、明確に事務局から説明を頂いて、今一度、会長・副会長・事務局で今日の議論をまとめ、協議会を開きたい。

○：若い人の参加について頭に置いておきたいのは、定住者なのかどうかという点である。利便性が良く住んでいる方もいることを考えれば、グラフの上にいるからといって分科会に出てくるかといえば、一概にそう言えないだろう。

★会長、副会長、事務局で役員会を開催する。検討テーマは「協議会の進め方について」とする。

3) 地区計画の原案説明会の開催について

「事務局より資料説明」

○：協議会メンバーは原案説明会に参加したほうがよいのか。

→：一般の方を対象としているので、絶対出なければいけないということはないが、できれば参加していただきたい。

○：樋ノ爪地区と芝4・5丁目地区に住む人が対象となるのか。

→：そのとおりである。

○：対象地域の方に説明会の案内は出るか。

→：案内のポスト投函を5月13（火）、14（水）、15日（木）の3間で行っている最中である。

4) 閉会（その他）